

地域包括ちゅいしーじー講習会 (地域包括支援センター石嶺圏域・支援者向け)

テーマ：『自分らしく生きるために ～ACPって何?～』

○日 時：令和6年10月2日(水)

午後6時00分～8時00分

○場 所：オリブ山病院・本館5階 礼拝堂

○参加者：53名(オリブ山病院37名、事業所16名)



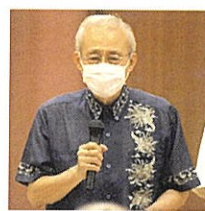
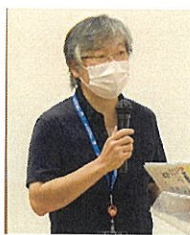
- 【目的】①支援者を対象に在宅医療・介護について学びを深めてもらい、多職種連携の構築を図る。
②気軽に参加できるカードゲームやグループワークを通して、ACPの重要性を認識してもらい、その実践を体験してもらう。

【考察】参加者へ事前・事後アンケートを実施し回収率は約87%であった。アンケートではグループワークやもしバナカードゲームを体験したことにより、ACPについての理解度が深まったとの結果が多くあり、前後に有意差が見られた。また、緊急医療情報キットについて、広めていきたいとの感想が多かったが、一方で情報更新の負担感などを懸念する声も聞かれた。当講習会全体を通して参加者より、「相手に寄り添うこともACPであり、その人を知る・知りたい想いが大事」「何気ない会話からも想いを汲み取れるように心掛け、聞いたことは関係機関と情報共有する」など支援者として前向きな感想があった。また「まずは自身のACPから実行しスタートさせたい」という感想もあり、当講習会を通して、まずはご自身のACPに関することを周りに伝え実践し、さらには支援者として何ができるかを考えるきっかけになったなら幸いである。今後も支援者向けも含め、積極的に地域に出向いてACP普及啓発活動を行なっていきたい。

【司会】
NPO法人ゆくり
佐久川 伊弘 氏



医師
玉井 修 氏
『ACP(人生会議)について』



開会挨拶：田頭 真一 理事長



閉会挨拶：玉城 尚 院長



緊急医療情報キットについて説明



グループワーク・発表

- ① 『 ACP を行う上での現場の課題や悩みについて共有 』
- ② 『 ACP を実践する上でのヒント、気づきの共有 』



もしバナカードゲーム体験

那覇市在宅医療・介護連携推進事業
地域包括
ちゅいしーじー講習会



地域包括ちゅういしー講習会（地域包括支援センター 石嶺圏域・支援者向け）アンケート結果

日時：令和6年10月2日（水） 18時00分～20時00分

場所：オリブ山病院 本館・5階礼拝堂

参加者：53名（オリブ山病院37名、事業所16名）

参加者：53名

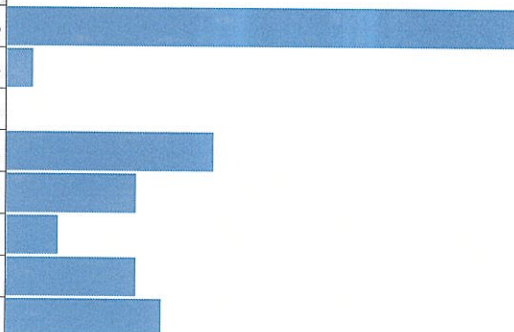
回答者：46名

回収率：86.8%

所属機関

※複数回答あり

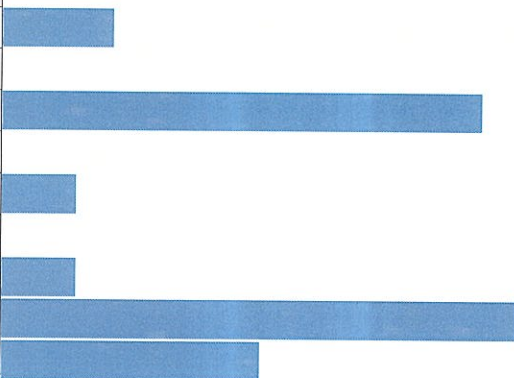
所属機関	人数	割合
病院	20	43%
診療所	1	2%
薬局	0	0%
高齢者施設	8	17%
訪問系事業所	5	11%
通所系事業所	2	4%
居宅介護支援事業所	5	11%
地域包括支援センター	6	13%
行政	0	0%
その他	0	0%
総計	47	100%



職種の内訳

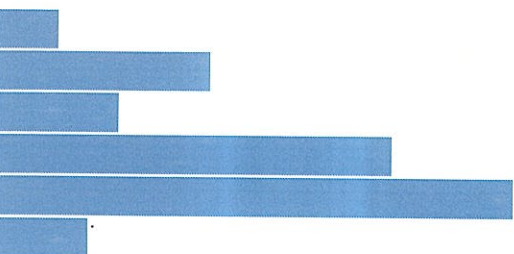
※複数回答あり

職種	人数	割合
医師	3	6%
歯科医師	0	0%
看護師	13	28%
保健師	0	0%
薬剤師	2	4%
栄養士	0	0%
MSW・PSW	2	4%
ケアマネジャー・ケアプランナー	14	30%
リハビリ	7	15%
社会福祉士	0	0%
介護職（ヘルパー等）	5	11%
その他	1	2%
総計	47	100%



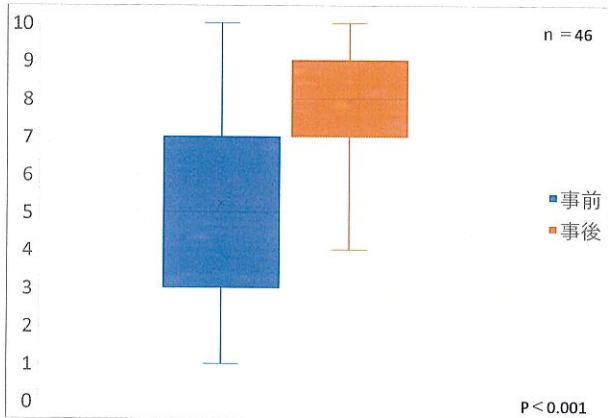
経験年数について

経験年数	人数	割合
1年未満	2	4%
1～5年	7	15%
6～10年	4	9%
11～20年	13	28%
21～30年	17	37%
31年以上	3	7%
無回答	0	0%
総計	46	100%



地域包括ちゅういしーじー講習会（地域包括支援センター 石嶺圏域・支援者向け）アンケート結果

1. ACPの理解度について

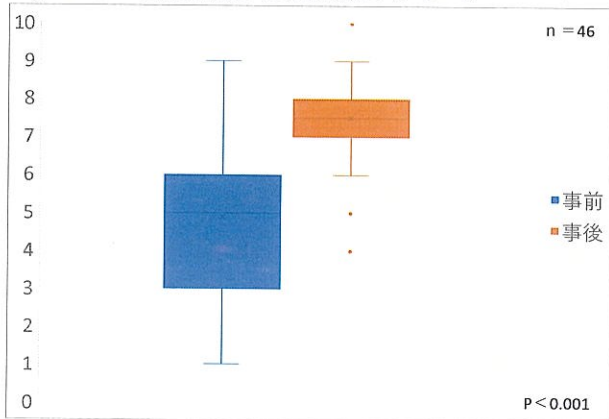


《事後コメント》

- ・分かりやすかった。
- ・グループワークや講話を聞いて、より深められた。
- ・普段行っていることだと分かりました。
- ・ゲームを通すことで理解しやすかった。
- ・理解を深めることが出来た。
- ・理解はできた。
- ・まだ自分に落とし込めていない。
- ・ACPとは、どのようなものが再確認できた。
- ・死生観について考える、いい機会になった。
- ・具体的に理解できたと思う。

- ・私自身の家族でACPを行っています。年一回話す機会を持っています。
- ・自分の最期について、自分の言葉で普通に会話として喋ることがACPだと分かった。

2. ACPを意識した支援について



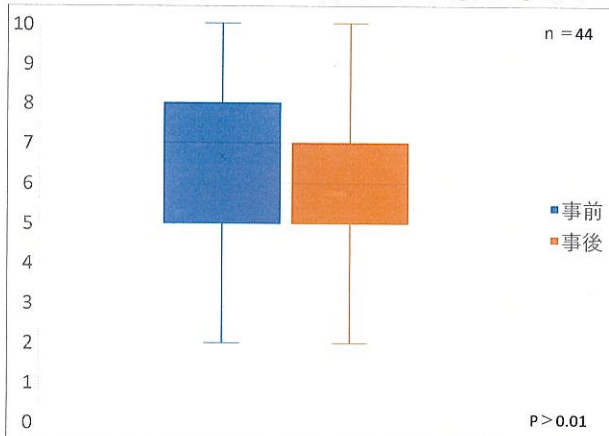
《事後コメント》

- ・元気な時から活かせる様に心掛けます。
- ・お互いの関係性が出来てから取り組みたい。
- ・意識しながら支援していきたい。
- ・普段行っていることだと分かりました。
- ・まずは自身のACP実行よりスタート。
- ・何気ない会話からも思いを汲み取れるよう心掛けたい。
- ・今回ACPを知る事が出来たので、支援することが出来ると思う。
- ・日常の中での言葉や思いを拾い上げていこうと思います。

- ・認知症により判断できない患者が多いが、今回学んだ事を実践に活かしたい。
- ・その人のことをより知ろうという姿勢で、好きな事・嫌いな事を把握したい。
- ・意思決定が出来る人には支援できそう。また看取りの方にもACPを中心に多職種で関わりながら支援していきたい。
- ・重く答えられない質問にならないように会話のようにさらっと聞き、聞いた事は関係機関と共有する事が大切だと思いました。
- ・普段の何気ない会話から本人の価値観を感じとれるようにしたい。
- ・今後は、ご本人と関わっている方々と共有しながら行っていきたい。
- ・寄り添うこともACPなんだという事、その人を知る・知りたいという想いが大事なんだと思いました。

地域包括ちゅういしーじー講習会（地域包括支援センター 石嶺圏域・支援者向け）アンケート結果

3. ACPを行うことに難しさを感じるかについて



	変数 1	変数 2
平均	6.659090909	5.772727273
分散	4.834566596	3.482029598
観測数	44	44
ピアソン相関	0.111042986	
仮説平均との差異	0	
自由度	43	
t	2.160549736	
P(T<=t) 片側	0.018173163	
t 境界値 片側	1.681070703	
P(T<=t) 両側	0.036346327	
t 境界値 両側	2.016692199	

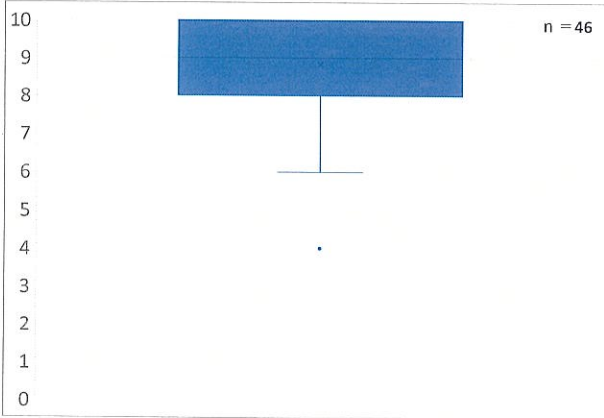
《事前コメント》

- ・本人の意思の確認を行うことが難しい。
- ・テーマがとても大切なことだけに慎重になってしまう。
- ・マイナスイメージのことを伝えることや、今実感しづらいことを話すのは難しいと思う。
- ・ご本人の意向を汲み取る部分が難しく、また意向は流動的であるため。
- ・本人の意思や希望を引き出すことが難しく感じるから。
- ・ACPを理解できていないため、難しく感じている。
- ・「最期」について、どう話を切り出すのか？難しさを感じる。
- ・要支援の方を支援、ケアマネジメントを行っているため、もう少し先の事に感じられている方も多く、どのように伝えていいのかわからず、ACPについて説明が難しい。
- ・日頃から相手に興味を持って接していれば、さほど難しくはないのでは。
- ・ACP関連の話を聞くタイミングや話の聞き方。
- ・気兼ねなく言える事ではないので、日数や状況、状態の把握が必要。
- ・本人が判断できない場合、家族任せになり家族がどこまで理解しているのかわからない時がある。

《事後コメント》

- ・小さなことから、やっていることにも気づけたため。
- ・きりだすタイミングが難しい。
- ・話しを聞く時間がない。話すことのできない方が多い。
- ・良いと思われるツールやタイミングをもっと増やしていきたい。
- ・普段行っていることだと分かりました。
- ・まだ導入をスムーズにできる自信がない。
- ・話すタイミング、言葉選びに伝え方。
- ・まだ難しさを感じている。私に何が出来るのか？
- ・施設なので一人ひとりとじっくり話し合う時間が取れない。認知症の方や話せない方も多くいます。
- ・意思表示が困難な方の場合、家族との普段からのコミュニケーションが大切。
- ・タイミングや声のかけ方など難しいと感じる。
- ・たまに家族間で意見が分かれる事があるので、その場合に難しいと感じる。
- ・ネガティブに受け止められないかなと感じて難しい。
- ・どのように相手の思いを引き出すのか？話の流れによると思う。

4. ACPを理解するうえでグループワークは参考になったか



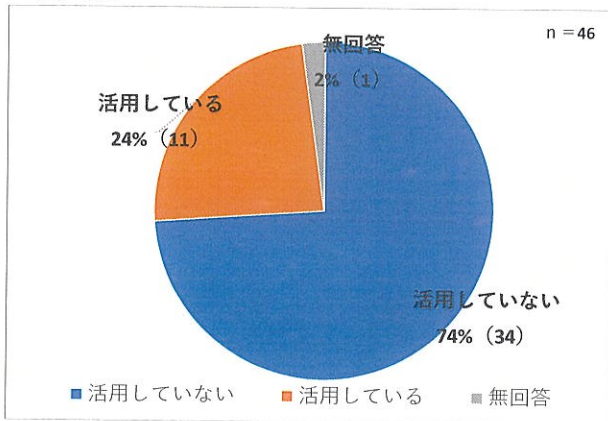
《事後コメント》

- ・それぞれの死生観の違いを学ぶことができた。
- ・色々な立場の人の意見が聞けた。
- ・他の人の意見を聞く事で気づきがあった。
- ・色々な意見を聞くことが出来た。
- ・色々な考えを聞いて良かった。
- ・一人ひとり色々な考えがあるんだと思った。
- ・色々な意見を聞いたのが良かったです。
- ・緊張したけど楽しくできました。
- ・色々な考え方より、気づきがあった。

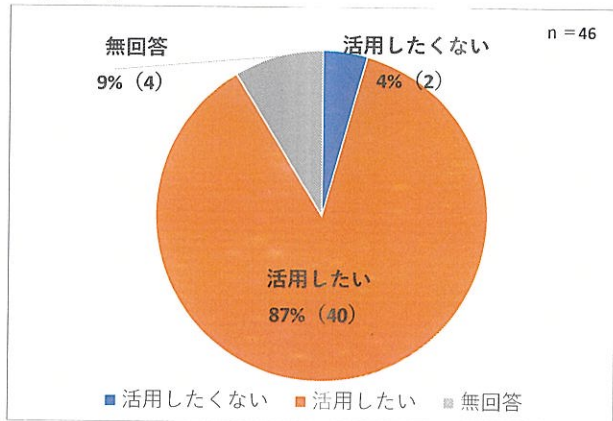
- ・グループ内で選んだカードが共通する項目が多かった。最期はみんな同じ考え？
- ・異なる職種の方々とディスカッションすることで、考え方の違いを学ぶことが出来ました。
- ・もしバナカードが有効なツールであることが分かった。短い時間であったが、それぞれの価値観が異なることを再認識できた。
- ・たくさんの意見が出て楽しかった。事業所（職種）が違うので、自分にはない意見が聞けた。
- ・もしバナカードが今後について考えるきっかけになると思いました。
- ・人はそれぞれの価値観があり、色々な考え方をしている。
- ・自分の職種以外のお話は参考になりました。
- ・それぞれの意見や、自分や家族からACPを始めているなど具体的な体験を聞いて良かった。
- ・いろいろな多職種からの意見は、とても参考になった。
- ・頭の整理がしやすかった。
- ・色々な意見が聞け、考えが広がった。
- ・他の人の意見を聞く事で、自分自身の振り返りが出来る。
- ・その人のことを知る、職種によって視点が違う、とても参考になった。

5. 緊急医療情報キットの活用について

《事前》



《事後》



《事後コメント》

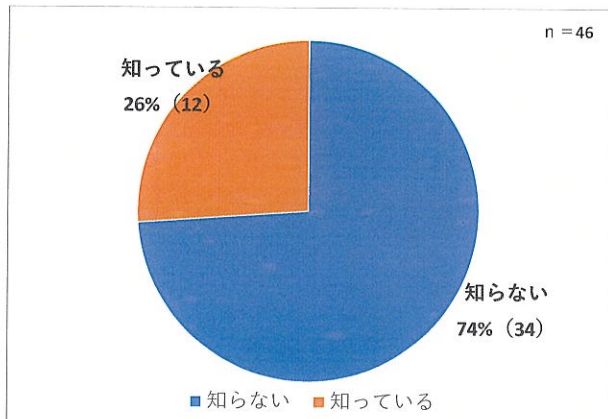
- ・使用している方の退院する時に活用したい。
- ・すでに活用している。
- ・一人暮らしの利用者に勧めたい。
- ・自分の親に勧めたい。
- ・分かりやすい。

地域包括ちゅういしーじー講習会（地域包括支援センター 石嶺圏域・支援者向け）アンケート結果

- ・説明を聞いて広めていきたいと思いました。
- ・まずは、こういうものがあると知ってもらいたいです。
- ・本人・家族に再認識（健康・生活）になる。
- ・記入するのが、とても大変。その都度、情報の更新も負担。
- ・利用者さんによっては活用したい。
- ・自宅退所される方へ勧めたい。
- ・お互い安心感がある。
- ・家族に活用したい。
- ・あまり知らなかったので、是非活用していきたい。
- ・更新の時期を決めて行うようにしたい。
- ・今日初めて、緊急医療情報キットがあるのを知りました。
- ・もしもの時に役立つ。
- ・いざという時、何もなければ自分の意思が反映されない。
- ・しかし冷蔵庫の中でなくても良いのでは。

6. もしバナゲームについて

《事前》



《事後コメント》

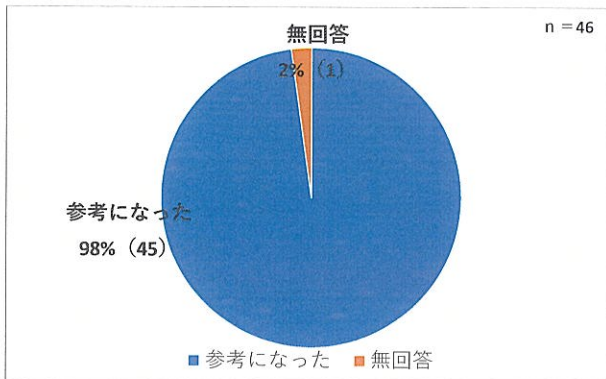
- ・具体的に書いてあり、分かりやすかった。
- ・自分の思い（考え）が認識できた。
- ・良かったです。意外と楽しめた。
- ・有意義な時間だった。
- ・人それぞれ価値観が違う。
- ・とても分かりやすかったです。
- ・ゲーム内でも意見・考えが変わり難しかった。
- ・人それぞれの気持ちを確認する事が出来る。
- ・自分の考えを明確に出来た。
- ・楽しくACP理解できました。

- ・最期を迎えるというテーマに具体的に気軽に取り組めるものと思います。
- ・自分の価値観に気づけた。変化する事を前提として考える。
- ・初めてゲームに参加しました。人によって価値観が違う中、その人が何を大切に思っているのか導き出す事ができる素晴らしいツールだと思いました。活用してみたいです。
- ・自分が大切にしている想いが改めて分かりました。ACPを考えるきっかけになると思います。
- ・人それぞれ価値観が違い、本人に直接聞かないと分からない、その重要性を再認識しました。
- ・ACPを知るのに、とても良かった。また、自分自身を知ることが出来た。
- ・相手の気持ちが自分と違う事で、人それぞれの答えがあるのだと気づきました。
- ・話しが出来て良かった。価値観の違いが分かった。自分でもタイミングによって異なるカードを選ぶと思った。
- ・元気でも日頃から考えておかなくてはいけないものであると思いました。
- ・自分・他者の価値観の違いを改めて知れた。
- ・すべてのカードから選べるゲームシステムにしてほしい。
- ・ACPだけでなく、自身の気持ちを振り返るのにすごく良かった。
- ・気づけなかった自分の価値観を認識できた。カードを利用することで共有するという環境を作れるのは、とても良かったです。
- ・自分が大事にしたい思いを振り返ることが出来ました。
- ・自分の考え方が今までと少し違う考えに少しびっくり。考えは次々に変わっていくんだろうなと思った。

地域包括ちゅういしーじー講習会（地域包括支援センター 石嶺圏域・支援者向け）アンケート結果

- ・初めてでしたが、ルールが理解しやすかったです。色々な考えがあることが分かり、話してみないと伝わらないですね。
- ・自分がぼんやり考えていた事が可視化される事で、自分が死ぬ時にどうしたいか気づけて良かった。
- ・自分や他の参加者がどんなことを大切にしているのか、優先順位など考え方がそれぞれ違うことを感じました。
- ・意外と自分の価値観など言葉で言えないものだな。このようなツールはいいですね。
- ・自分の大切にしているものが何かを理解できた。自分の価値観を押し付けないように注意したい。
- ・今の自分はこういう気持ちなんだなと気づかされた。
- ・色々な死生観について聞く事ができ、考える機会になった。
- ・自分の気持ちを言葉にできる。表現に困る部分も明確に出来た。
- ・初めてやりました。自分の想いをはっきりすることができた。
- ・最期に自分が何を望んでいるのかを知る事が出来た。
- ・お正月に家族とやってみたいです。友人ともやりたい。

7. 講習会を終えて



《事後コメント》

- ・勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ACPが身近な事として浸透していくと良いと思った。
- ・自身の生活～仕事を通して活用出来たら良い。
- ・ACPを楽しく学ぶことが出来て良かった。
- ・定期的に企画してほしい。
- ・ACPをグループで話し合いながら笑って終わられた。
- ・地域の方向けに、このような研修をしていただければと感じました。

- ・グループワークで多職種の意見が聞くことが出来て良かったです。
- ・困っているケースの知恵を出し合う場があると良いと思いました。
- ・良いセミナーを開催していただいて、ありがとうございました。
- ・気づかされた事が多くあったので、その人を知るという基本を大切にして、その人らしく生きられるよう支援できるようになりたい。
- ・どうもありがとうございました。職場で共有して利用者について相談していきたい。
- ・ACP活動を広げるために、小中学生から知る・学ぶ機会があるといいなと思いました。孫からおじいちゃん・おばあちゃんへACPを話すきっかけにもなるのでは？
- ・グループワークがあったので飽きることなく、時間があっという間に過ぎ、死生観について考える機会となりました。
- ・お互い考えや意見が違う中、どのように認めていくのか、「自分らしさ≠自分の希望」なるほどと思った。